

リアルな方法とは

宮本百合子

青空文庫

ついこの頃、科学の仕事をしている友人から大変興味のある話をきいた。それは植物の分類に関する事で、従来の分類は、目で見えるだけの葉っぱの形、花の形、実の工合などが目安でされていた。鋸状の葉っぱは葉っぱの目に見えるその特徴によつて、他の鋸状の葉っぱをもつ樹との類似を見られて分類の条件とされていた。ところが最近の植物の分類の方法は進歩して来て、只そうやつて肉眼で見える形の上での類似などばかりにたよらず、もつとその植物の生存の本質的な点、例えば或る葉が一定の光の下でその葉緑素にどんな変化をおこすかという点にふれて観察して、その有機作用の共通性で、植物の分類をするようになつて来たというのである。だから、昔の、目で見較べたばかりの分類よりもつと各植物の生活の内部に直接ふれて観察が行われてゆくわけである。

この自然科学の一新面の話が、ひどく面白く思われるのは、文学のリアリズムの問題がすぐ思い浮ぶからであつた。リアリズムへの疑問というようなものは、これまでの文学の歴史のなかでも様々な時代に様々な社会層の心情の反映として表明されて來ていると思う。今日もやはり一部にはリアリズムへの反撥が存在していて、その原因は社会的にも心理的にも単純ではないと思える。リアリズムにあき足らず思う感情の根には、いつも、現実を

そのまま写したつて、という不満が強く蠹^{うごめ}いている。それに対してもアリズムを藝術の正道と信じている人々は、何も写実が今日のアリズムではないと迄は云うけれど、では、どういうのが目ざされているアリズムかというと、それを短くはつきり定義づけることは困難を感じられているようだ。

アリズムが、目に訴える人間のいろんな心と体との動きを外側から追つてついて行つて片はじから、本当のように描くばかりのものではなくて、同じ今日という社会の息を吸いながら、Aはそれをどう吸収し、Bはそれからどんな作用をうけ又作用を与えているかという、その社会生活と個人との間にある有機的な性格にふれて描こうとするものだという点では、植物の分類法の上に行われている新しい方法が、きわめてまざまざとアリズムの真実なありかたの一面に共通している。

人間性という言葉は文学の上で、とかくあらましの総括でつかわれるならわしだが、その人間性の具体的の姿は、それぞれの植物がもつてゐるような特質とその特質における共通性をももつてゐるわけで、人間性もその発露は、自然主義が本能に帰結させたより遙に多角なものとしてうけとられて來てゐるのだと思う。人間は植物とちがつて、自分の意欲で、自分の社会的な分類の埒から跳躍する力をもつてゐる点も、人間の文学のアリズムの面

白さ複雑さである。人間性への具体的な迫真的試みだけが、リアリズムを自然主義の匂いの中から歩み出させ、明日の文学へ新しい展開を与える可能を見出してゆくのだと思われる。

〔一九四〇年九月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十一巻」新日本出版社

1980（昭和55）年4月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第4刷発行

初出：「月刊文章」

1940（昭和15）年9月号

入力：柴田卓治

校正：松永正敏

2003年2月13日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

リアルな方法とは

宮本百合子

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>